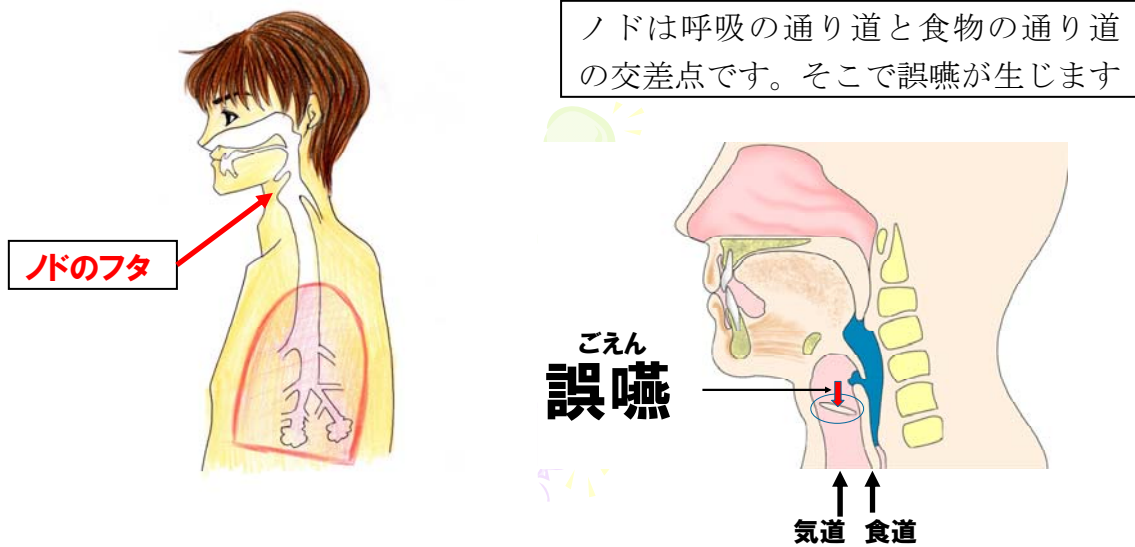




## 誤嚥性肺炎の予防と摂食の回復 (患者さん用)

肺炎は、日本人の死亡原因の第 4 位であり、その肺炎のかなりの部分が飲み込み障害から起こる『誤嚥性肺炎 (ごえんせいはいえん)』と関連しています。この飲み込み障害は、加齢に伴う『ノドのフタを閉じる反射の遅れ』から起こる場合と、疾病 (脳卒中・脊髄小脳変性症・筋萎縮性側索硬化症・重症頭頸部外傷等) により、お口やノドの機能低下より起こる場合があります。

### 《誤嚥の起こる理由》



私たちのノドは、いつでも呼吸ができるように『ノドのフタ』がいつも開いた状態になっています。そして、飲み込むときだけ『ノドのフタ』が閉じる仕組みになっています。しかしながら、脳卒中術後等でノドに麻痺が起こると、食物をノドに送るお口の機能やノドの反射が低下して、『ノドのフタ』を閉じる反射が低下することから、誤って食物や唾液が肺に入りやすくなります。

～お口やノドに感覚麻痺がある方へ～

**脳卒中の術後は、摂食が可能でも夜間の唾液誤嚥から、誤嚥性肺炎を発**

**症する場合があります。術後 6 ヶ月～1 年間は口腔ケアを十分しましょう**

### 《飲み込み障害の徴候》

むせる

咳がでる

声がかすれる

痰がでる

ノドの違和感

